

KENWOOD

ワンセグTVチューナー

KNA-DT1

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用前に、取扱説明書をよくお読みのうえ、
説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書を大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド

Kenwood Corporation



はじめに

001	目次	2
002	安全上のご注意	3
003	使用上のご注意	5
004	本書の読みかた	6
005	ワンセグについて	7

お使いになる前に

101	リモコンの各部の名称とはたらき	8
102	リモコンの電池を入れ替える	9
103	電源を入れる / 切る	10

ワンセグを見る

201	ワンセグの受信とチャンネルリスト	11
202	チャンネルをスキャンする	12
203	チャンネルリストを保存する	13
204	チャンネルリストを呼び出す	14
205	チャンネルリストを表示する	15
206	チャンネルリストから選局する	16
207	チャンネルリストの順に選局する	17
208	放送局をチャンネル順に選局する	18
209	リモコンでダイレクトに選局する	19
210	音声を設定する	20
211	字幕を設定する	21
212	受信情報を表示する	22
213	番組表を表示する	23

ワンセグ TV チューナーを設定する

301	出力する AV ソースを切り替える	24
302	画面モードを切り替える	25
303	操作音をオン / オフする	26
304	ワンセグ情報を確認する	27
305	お買い上げ時の状態に戻す	28
306	緊急放送を受信する	29

ワンセグ TV チューナーを取り付ける

401	安全上のご注意	30
402	取付部品一覧	32
403	作業の進めかた	33
404	ワンセグ TV チューナー本体の取り付け	34
405	フィルムアンテナの取り付け	35
406	リモコン受光部の取り付け	40
407	周辺機器の接続	41
408	電源の接続	42

付録

501	ソフトウェアに関する重要なお知らせ	43
502	主な仕様	51
503	保証とアフターサービス	52
504	故障かなと思ったら	53
505	用語索引	55

安全上のご注意

002

製品を安全にご使用いただくため、ご使用前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

 注意	△記号は注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。近傍に具体的な注意内容が描かれています。
 禁止	○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
 実施	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。近傍に具体的な内容が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

警告



運転中に本製品の操作を行うと、ハンドルから手が離れたり、道路状況への注意力が散漫になるなどして、交通事故などの原因になります。交通事故防止のため、運転中は本製品の操作を行わないでください。本製品を操作するときは、必ず安全な場所に車を止めてから行ってください。



運転中の音量は、車外の音や緊急車両などの音が聞こえる程度で使用してください。外部の音が聞こえない状態で運転することは事故の原因となります。



⚠ 警告

以下のような異常があった場合は、直ちに使用を中止し、購入店、ケンウッドサービスセンター、または営業所へご相談ください。そのまま使用すると、火災その他の事故の原因となります。



実施

- 音が出ない
- ディスプレイが表示されない
- 異物が入った
- 水がかかった
- 煙が出る
- 変な臭いがする



禁止

修理は必ずお買い上げの販売店にご依頼ください。お客様による修理は、火災その他の事故の原因となります。



禁止

製品の分解や改造はしないでください。火災その他の事故の原因となります。



禁止

画面が表示されない、音声が出ないなどの故障状態で使用しないでください。事故、火災、感電の原因となります。



実施

万一、異物が入った、水や飲み物がかかった、煙が出てくる、変な臭いがするなどの異常が発生した場合は、ただちに使用を中止し、お買い求めの販売店にご相談ください。そのまま使用を続けると、事故、火災、感電の原因となります。



実施

本製品、または車両のヒューズが切れたときは、コードがショートしていないことを確認後、必ずヒューズに表示されている容量（アンペア数）の新しいヒューズと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用しますと、火災の原因となります。



実施

本機の取り付け、取り外し、周辺機器の追加などを行う際は、安全のため、必ずお買い求めの販売店にご依頼ください。取り付け作業には専門技術が必要です。



実施

事故防止のため、電池やネジなどの小物類は幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠ 注意



禁止

本製品内に水や異物を入れないでください。発煙、発火、感電の原因となります。



禁止

本製品は、車載用以外としての用途では使用しないでください。

番組受信について

- ワンセグは、携帯端末の小さな画面を前提とした放送サービスですので、画質が粗く感じられたり、映像の動きがなめらかでなかったりすることがあります。
- チャンネルを切り替えたとき、映像および音声が出力されるまでに数秒かかります。
- 天候、車の場所や方向、周辺環境（建物、車、人など）などにより、受信状態が変化します。受信状態が悪くなると、画面が静止したり、画面上にブロック状のノイズが映ったりすることがあります。また、音声もとぎれたり、出なくなったりすることがあります。
- 本機の受信周波数帯域に妨害を与える電子機器や無線利用機器など（パソコンや携帯電話など）を車内で使用したり、本機や地上デジタル放送用アンテナやアンテナコードに近づけたときにも、受信状態が悪いときと同様の症状が発生する場合があります。それらの機器の使用を中止するか、本機から離れてご使用ください。
- パワーウィンドウ、ワイパー、電動ミラー、エアコンファンなどの車両電装品を作動させると、映像にブロックノイズが出たり、音かとぎれたり、静止画面、黒画面となり音声が出なくなることがあります。
- 車種およびアンテナと受信機の取り付け場所や取り付け方法により、受信可能なエリアが変化します。
- 障害物などの影響により放送エリアでも受信できない場合があります。
- 車の走行速度によっては映像・音声が乱れたり、受信できなくなる場合があります。また、停車中でも周囲の車の動き等により受信状態が悪くなり、映像・音声が乱れる場合があります。
- コピーガードがかかっている番組は録画機器を経由してテレビで視聴すると正常に受信できません。コピーガードがかかっている番組を視聴する場合は、録画機器を経由しないでください。

本書は、ワンセグTVチューナー KNA-DT1（以降、「本機」）のすべての機能の操作および取り付け方法を説明したリファレンスマニュアルで、本機の機能とメニューに従って構成されています。

- 0xx：本機全体に関することが記載されています。
- 1xx：リモコン機能の操作に関することが記載されています。
- 2xx：ワンセグを観るための操作に関することが記載されています。
- 3xx：本機のセットアップ(各種の設定)機能の操作に関することが記載されています。
- 4xx：本機の取り付けに関することが記載されています。
- 5xx：関連する資料や用語索引などが記載されています。

203

● 項番
本書中での参照は、すべてこの項番で示されています。

● リード
この項に記載されている機能が簡潔に説明されています。

● Before Step
この操作を始める前に行う操作です。

● リモコンキー
リモコンで操作するキーを表しています。

● Complete
ここで操作完了です。

● 補足説明など note
補足説明や制限事項などが記載されています。

tip
使いかたのヒントが記載されています。

チャンネルリストを保存する

チャンネルスキャンして作成されたチャンネルリストをチャンネルメモリに保存します。

Before Step
チャンネルスキャンしておきます。
202 (チャンネルをスキャンする)

[メモリ登録]キーを押します。

1	NHK-G	NHK総合・東京
2	NHK-E	NHK教育・東京
4	NTV	日本テレビ
5	EX	テレビ朝日
6	TBS	TBS
7	TX	テレビ東京

登録先のメモリを選択します。

現在のチャンネルリストに登録します。
どこのメモリに登録しますか？

ホーム
エリア1
エリア2

[はい]を選択します。

ホームへ登録しますか？

ホーム
エリア1
エリア2
はい
いいえ

Complete

note

- チャンネルメモリに保存されているチャンネルリストは、チャンネルスキャンを行っても変化しません。

tip

- チャンネルメモリは、「ホーム」、「エリア1」、「エリア2」の3種類が用意されています。いつも走行する地域のチャンネルリストは「ホーム」に保存し、出かけた先のチャンネルリストは「エリア1」または「エリア2」に保存すると使い分けすると便利です。

ワンセグを見る 13

ワンセグとは

ワンセグは、地上デジタルテレビ放送のサービスのひとつで、2006年4月より東京、名古屋、大阪、および一部地域で放送が開始されました。

日本の地上デジタルテレビ放送は、約6MHzの帯域を13個のセグメントに分けて放送する仕組みです。そのうち、12個のセグメント(12セグ)を使って高画質・高音質の放送、残りの1個のセグメント(ワンセグ)を使って携帯や移動体向けに放送するサービスが行われています。

ワンセグは、電波の到達範囲は12セグよりも広く、移動時でも安定した受信が可能です。ただし、12セグに比べると、画質や音質は劣ります。

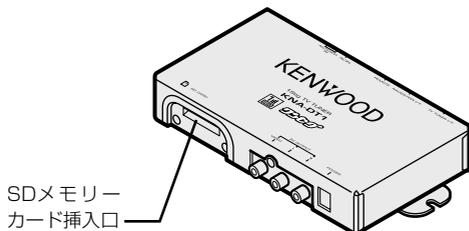
バージョンアップについて

地上デジタルテレビ放送のソフトウェアに関して、アップデートの必要性が発生する場合があります。

このような場合は、弊社ウェブサイト www.kenwood.co.jp にてご案内いたします。

バージョンアップは、次の手順で行います。

1. 弊社ウェブサイトからアップデートデータをダウンロードします。
2. アップデータをSDメモリーカードにコピーします。
3. SDメモリーカードを本機に挿入します。



詳しいバージョンアップの方法やSDメモリーカードの詳細は、弊社ウェブサイトでご案内されます。

なお、SDメモリーカードは別途お客様に用意していただく必要があります。

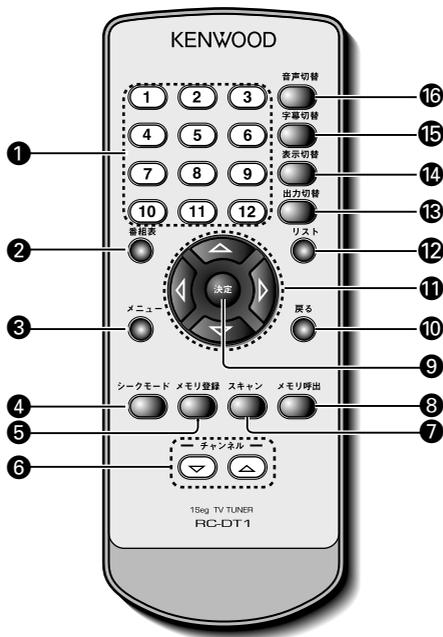
また、弊社ウェブサイトからアップデートデータをダウンロードし、SDメモリーカードにコピーすることが不可能なお客様は、カスタマーサポートセンター、サービスセンター、サービスステーション、またはお買い上げの販売店にご相談ください。

≡ note

- 本機ではワンセグのみの受信が可能です。
- SDメモリーカードに記録されている音楽や画像を本機で再生することはできません。
- バージョンアップの操作時以外は、SDメモリーカードを本機に挿入したままにしないでください。
-  SDロゴは商標です。

リモコンの各部の名称とはたらき

101



- ① 数字キー
ダイレクト選局します。☞ 209
- ② 番組表キー
現在受信している放送局の番組表を表示します。
☞ 213
- ③ メニューキー
各種の設定を行うメニューを表示します。
☞ 302 ~ 305
- ④ シークモードキー
シークモード(プリセット選局/オート選局)を切り替えます。☞ 207、208
- ⑤ メモリ登録キー
チャンネルリストをチャンネルメモリに登録します。☞ 203
- ⑥ チャンネルキー
チャンネルを切り替えます。☞ 207、208
- ⑦ スキャンキー
現在の場所で受信できるチャンネルを探し、チャンネルリストを作成します。☞ 202
- ⑧ メモリ呼出キー
チャンネルメモリに登録したチャンネルリストを呼び出します。☞ 204
- ⑨ 決定キー
選択を決定します。
- ⑩ 戻るキー
前の画面に戻ります。
- ⑪ 上下左右キー
選択する項目のハイライトを移動します。
- ⑫ リストキー
現在のチャンネルリストを表示します。☞ 205
- ⑬ 出力切替キー
ワンセグと外部AVソースを切り替えます。
☞ 301
- ⑭ 表示切替キー
受信情報や番組情報などの表示を切り替えます。
☞ 212
- ⑮ 字幕切替キー
表示する字幕を設定します。☞ 211
- ⑯ 音声切替キー
出力する音声を設定します。☞ 210

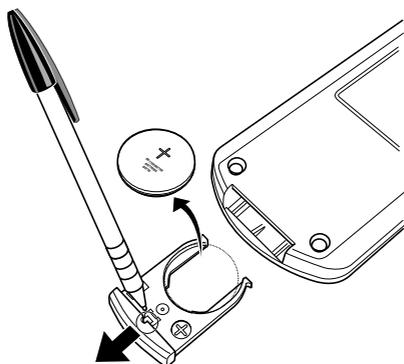
リモコンの電池を入れ替える

102

リモコンが反応しなくなったときは、新しい電池に交換してください。

リモコンには、ボタン電池 (CR2025) を使用しています。

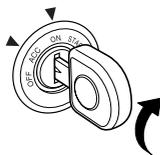
1. リモコンの裏側のくぼみにペン先などで差し込んで、スライドをリモコンから引き出します。
2. 新しい電池と入れ換えます。
3. 突き当たるまで、スライドを差し込みます。



≡ caution

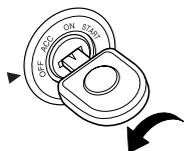
- 電池の向きを正しく入れてください。

電源オン



車両のイグニッションキーを"ACC"または"ON"にすると、本機の電源がオンになります。

電源オフ



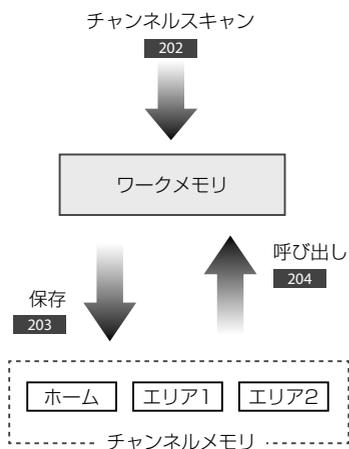
車両のイグニッションキーを"OFF"にすると、本機の電源がオフになります。

≡ note

- 本機の電源を初めてオンにしたときには、チャンネルスキャンを実行してください。 チャンネルスキャンを実行しないと、ワンセグを受信できません。

ワンセグの受信とチャンネルリスト

201



ワンセグを受信するには、まず現在の場所で受信できるワンセグの放送局を探します(チャンネルスキャン)。

探し出された放送局はチャンネルリストに書き込まれ、「ワークメモリ」に保存されます。

ワンセグの受信は、「ワークメモリ」に保存されているチャンネルリストの放送局を呼び出します。

ワークメモリに保存されているチャンネルリストは、再度チャンネルスキャンを行ったときに書き換えられます。

チャンネルリストを書き換えたくないときは、チャンネルメモリに保存してください。

なお、チャンネルメモリに保存されているチャンネルリストは、ワークメモリに呼び出すと選局に使えるようになります。

チャンネルをスキャンする

202

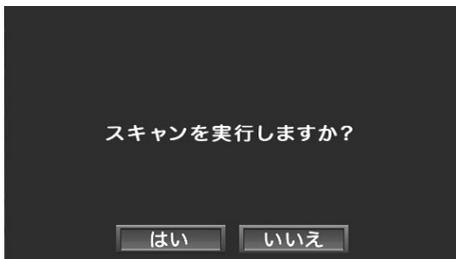
現在の場所で受信できるチャンネルを探し(チャンネルスキャン)、チャンネルリストを作成します。

1

[スキャン]キーを押します。



2



[はい]を選択します。



チャンネルリストが表示されます。

Complete

note

- チャンネルスキャンを実行しないと、ワンセグを受信できません。
- 初めて本機の電源をオンにしたときには、チャンネルスキャンを促すメッセージが表示されます。上記の手順に従って、チャンネルスキャンしてください。
- 受信状態が悪い場合は、チャンネルスキャンに時間がかかることがあります。
- チャンネルスキャンした結果は、チャンネルリストとしてワークメモリに保存され、選局等に使用できます。☎ 206、207
- ワークメモリにあるチャンネルリストは、再びチャンネルスキャンを行ったとき、またはチャンネルメモリからチャンネルリストを呼び出したときに書き換えられます。
- チャンネルスキャンした結果をチャンネルメモリに保存しておく、いつでも呼び出して選局に使えます。☎ 204

チャンネルリストを保存する

203

チャンネルスキャンして作成されたチャンネルリストをチャンネルメモリに保存します。

Before
Step

チャンネルスキャンしておきます。

202 (チャンネルをスキャンする)

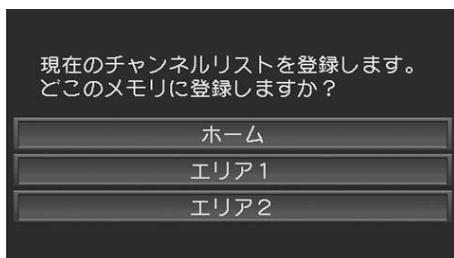
1



[メモリ登録]キーを押します。



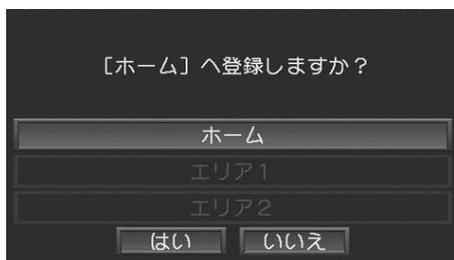
2



登録先のメモリを選択します。



3



【はい】を選択します。



Complete

≡ note

- チャンネルメモリに保存されているチャンネルリストは、チャンネルスキャンを行っても変化しません。

tip

- チャンネルメモリは、「ホーム」、「エリア1」、「エリア2」の3種類が用意されています。いつも走行する地域のチャンネルリストは「ホーム」に保存し、出かけた先のチャンネルリストは「エリア1」または「エリア2」に保存するといった使い分けをすると便利です。

チャンネルリストを呼び出す

204

チャンネルメモリに保存されているチャンネルリストをワークメモリに呼び出します。

1



[メモリ呼出]キーを押します。



Complete

note

- [メモリ呼出]キーを押すたびに、呼び出すチャンネルメモリが「ホーム」→「エリア1」→「エリア2」の順に切り替わります。
- チャンネルメモリに保存されていないチャンネルリストがワークメモリにあるときに[メモリ呼出]キーを押すと、確認のメッセージが表示されます。



[はい]を選択すると、チャンネルメモリのチャンネルリストが呼び出されて表示されます。

[いいえ]を選択すると、チャンネルメモリのチャンネルリストの呼び出しは中止されます。

- 選局にチャンネルリストを使う場合(206 、 207 、 209)には、使用するチャンネルリストをワークメモリに呼び出しておいてください。
なお、ワークメモリには、最後にチャンネルスキャンして作成されたチャンネルリストまたは最後にチャンネルメモリから呼び出したチャンネルリストが入っています。

チャンネルリストを表示する

205

ワークメモリにあるチャンネルリストを表示します。

1



[リスト]キーを押します。



Complete

≡ note

- この機能は、チャンネルリストで選択するときなどのために、ワークメモリにあるチャンネルリストを表示するものです。メモリ（「エリア1」など）に保存されているチャンネルリストを表示するものではありません。

チャンネルリストから選局する

206

チャンネルリストを見ながら、受信する放送局を選局します(チャンネルリスト選局)。

1

チャンネルリストを表示します。



2



放送局を選択します。



チャンネルリストが複数ページある場合は、左右キーでページを切り替えることができます。



Complete

≡ note

- [リスト]キーを押したときに表示されるチャンネルリストは、ワークメモリにあるものです。他のチャンネルリストを使う場合には、使用するチャンネルリストをチャンネルメモリからワークメモリに呼び出してください。☞ 201、204
なお、ワークメモリには、最後にチャンネルスキャンして作成されたチャンネルリストまたは最後にチャンネルメモリから呼び出したチャンネルリストが入っています。
- 1つのチャンネルに複数の放送サービスが含まれている場合、チャンネルリスト選局ではサービス番号の最も小さい放送サービスしか選択できません。他の放送サービスを選択するときは、プリセット選局で選局してください。☞ 207

チャンネルリストの順に選局する

207

チャンネルリストに記載されている順番に従って、チャンネルを切り替えます(プリセット選局)。

Before
Step

使用するチャンネルリストをワークメモリに呼び出しておきます。

202 (チャンネルをスキャンする)、 **204** (チャンネルリストを呼び出す)

1



シークモードをプリセットモードに切り替えます。

シークモード



[シークモード]キーを押すたびに、プリセットモードとオートモードが切り替わります。

2



チャンネルキーを押します。

▲ : チャンネルリストの1つ上の放送局を選局します。

▼ : チャンネルリストの1つ下の放送局を選局します。



Complete

≡ note

- 1つのチャンネルに複数の放送サービスが含まれている場合には、この方法でのみ選択できます。
- ワークメモリには、最後にチャンネルスキャンして作成されたチャンネルリストまたは最後にチャンネルメモリから呼び出したチャンネルリストが入っています。

放送局をチャンネル順に選局する

208

チャンネル順に切り替えて、放送局を受信します(オート選局)。

1



シークモードをオートモードに切り替えます。

シークモード



[シークモード]キーを押すたびに、プリセットモードとオートモードが切り替わります。

2



チャンネルキーを押します。

: チャンネル番号の昇順に選局します。

: チャンネル番号の降順に選局します。



Complete

≡ note

- 1つのチャンネルに複数の放送サービスが含まれている場合、オート選局ではサービス番号の最も小さい放送サービスしか選択できません。他の放送サービスを選択するときは、プリセット選局で選局してください。D38 207

リモコンでダイレクトに選局する

209

チャンネルリストで割り当てられているプリセット番号をリモコンで指定して選局します(ダイレクト選局)。

Before
Step

使用するチャンネルリストをワークメモリに呼び出しておきます。

202

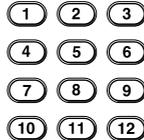
(チャンネルをスキャンする)、

204

(チャンネルリストを呼び出す)

1

数字キーを押します。



Complete

≡ note

- 使用するチャンネルリストをワークメモリに呼び出しておいてください。☞ 204
なお、ワークメモリには、最後にチャンネルスキャンして作成されたチャンネルリストまたは最後にチャンネルメモリから呼び出したチャンネルリストが入っています。
- 放送局のプリセット番号は、チャンネルリストに表示されています。



- 1つのチャンネルに複数の放送サービスが含まれている場合、ダイレクト選局ではサービス番号の最も小さい放送サービスしか選択できません。他の放送サービスを選択するときは、プリセット選局で選局してください。☞ 207

音声を設定する

210

スピーカに出力する音声を設定します。

1



[音声切替]キーを押します。

音声切替



押すたびに、出力する音声の設定が切り替わります。

Complete

≡ note

- この機能により、多言語放送番組の音声言語（たとえば日本語/英語/日本語+英語）の出力を設定しておくことができます。ただし、設定されている音声で現在視聴している番組で放送されていない場合は、出力可能な音声に切り替わります。
- [音声切替]キーを押すたびに、設定する音声は次の順に切り替わります。
【音声1主音声】→【音声1副音声】→【音声1主音声+副音声】→【音声2主音声】→【音声2副音声】→【音声2主音声+副音声】

字幕を設定する

211

出力する字幕を設定します。

1



[字幕切替]キーを押します。



押すたびに、表示する字幕の設定が切り替わります。

Complete

≡ note

- [字幕切替]キーを押すたびに、表示する字幕の設定は次の順に切り替わります。
【OFF】→【字幕1】→【字幕2】
- 設定されている字幕が現在視聴している番組で放送されていない場合は、字幕は表示されません。
- 番組によって、放送されている字幕は異なります。
- 字幕の表示位置や大きさは変更できません。

受信情報を表示する

212

受信している放送局の情報や番組の情報などを表示します。また、表示する情報を切り替えます。

1



[表示切替]キーを押します。

表示切替



Complete



- 1 プリセット番号
- 2 3桁チャンネル番号
- 3 放送局名
- 4 信号強度
- 5 番組名
- 6 字幕および複数音声の放送
- 7 シークモード
- 8 字幕表示の設定状態
- 9 音声の設定状態

≡ note

- [表示切替]キーを押すたびに、全情報表示→受信情報表示(1～4)→信号強度のみ→全表示オフの順に切り替わります。

番組表を表示する

213

現在受信している放送局の番組表や番組の詳細情報を表示します。

1

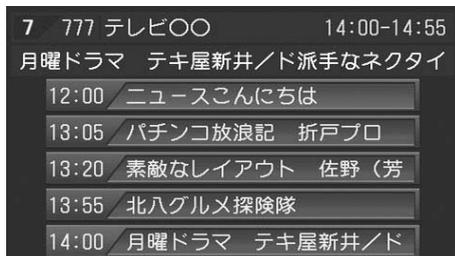


[番組表]キーを押します。

番組表



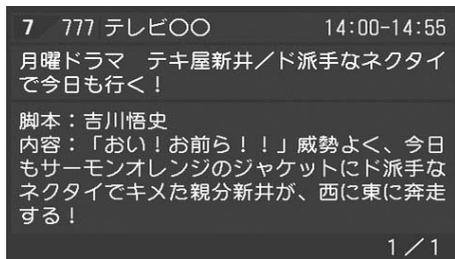
2



詳細情報を表示する番組を選択します。



番組表が複数ページある場合は、左右キーでページを切り替えることができます。



詳細情報が表示されます。

詳細情報が複数ページある場合は、上下キーでページを切り替えることができます。



Complete

≡ note

- 番組表が表示されているときに[戻る]キーを押すと、直前の番組の画面に戻ります。また、番組詳細情報が表示されているときに[戻る]キーを押すと、番組表の画面に戻ります。
- 番組表が表示されているときにプリセット選局 (207)、オート選局 (208)、またはダイレクト選局 (209) で放送局を変えると、その放送局の番組表に切り替わります。ただし、番組の詳細情報表示中は、放送局を変えることはできません。

出力するAVソースを切り替える

301

モニターに出力するソース(ワンセグ/外部AVソース)を切り替えます。

1

[出力切替]キーを押します。



押すたびに、ワンセグと外部AVソースが切り替わります。

Complete

≡ note

- 外部AVソースとは、本機のAV IN端子に接続されたAVソースです。
- 外部AVソースの再生中には、リモコンは[出力切替]キーのみを使用できます。

画面モードを切り替える

302

接続するモニターに合わせて、画面モード(ノーマル/ワイド)を切り替えます。

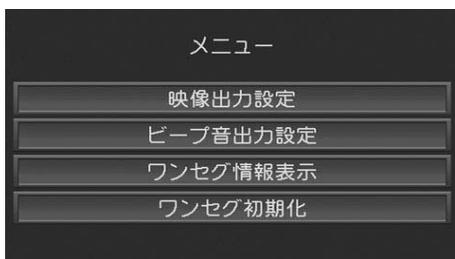
1



[メニュー]キーを押します。



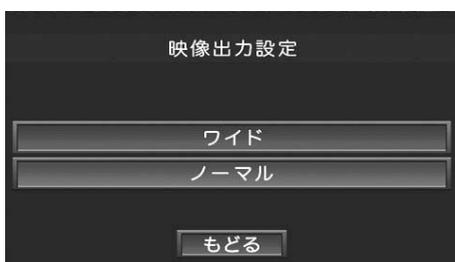
2



[映像出力設定]を選択します。



3



画面モードを選択します。



Complete

≡ note

- 接続するモニターの画面の縦横比が16:9の場合はワイドを、4:3の場合はノーマルを選びます。

操作音をオン/オフする

303

リモコンの操作時に鳴る音(ビープ音)をオン/オフします。

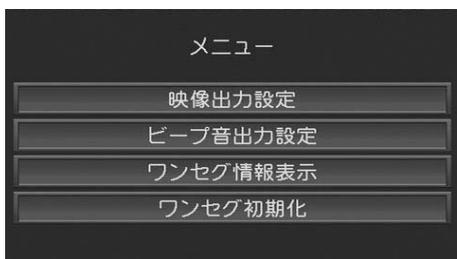
1



[メニュー]キーを押します。



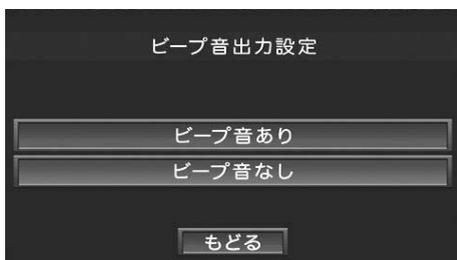
2



[ビープ音出力設定]を選択します。



3



操作音の有無を選択します。



Complete

≡ note

- 設定後、[戻る]キーを押すと、直前の画面に戻ります。

ワンセグ情報を確認する

304

本機のワンセグ情報(ファームウェアのバージョン)を確認します。

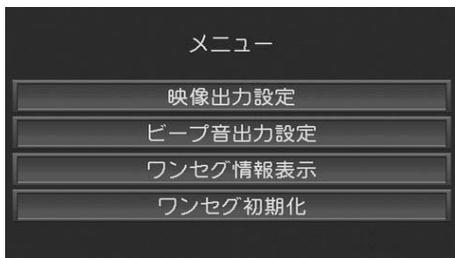
1



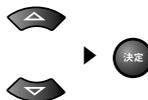
[メニュー]キーを押します。



2



[ワンセグ情報表示]を選択します。



バージョンが表示されます。

Complete

≡ note

- 確認したら、[決定]キーを押します。直前の画面に戻ります。

お買い上げ時の状態に戻す

305

すべてのメモリや設定をクリアし、本機をお買い上げ時の状態に戻します。

1



[メニュー]キーを押します。



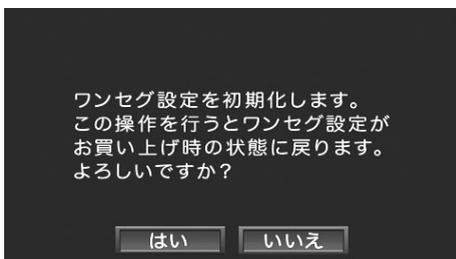
2



[ワンセグ初期化]を選択します。



3



[はい]を選択します。



システムの初期化が実行されます。

Complete

≡ note

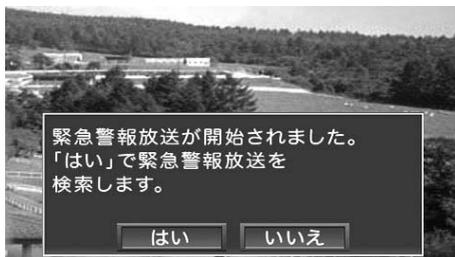
- この処理によってクリアされた情報や設定を元に戻すことはできません。間違いないように、慎重に操作してください。

緊急放送を受信する

306

緊急放送が開始されると、画面にメッセージが表示されます。

1



[はい]を押します。



自動的に緊急放送が放送されているチャンネルに切り替わります。

Complete

≡ note ≡

- 受信に時間がかかる場合があります。
- [いいえ]を選択すると、緊急放送のチャンネルには切り替わりません。

安全上のご注意

401

製品を安全にご使用いただくため、ご使用前によくお読みください。

⚠ 警告



大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車で使用しないでください。火災などの原因となります。本製品はDC12V⊖アース車専用です。



配線作業中は、バッテリーの⊖端子を外してから行ってください。ショート事故による感電や怪我の原因となります。



本製品を取り付けの際には、必ず付属の取付用部品をご使用ください。取付用付属品をご使用にならないと、製品内部を壊し、ショート事故による火災が起こるおそれがあります。また、取り付け不備により運転中に製品が外れて人に当たるなど、怪我の原因となります。



バッテリー電源(黄)を接続する車両側電源のヒューズ容量が、本機のヒューズ容量(5A)以上あることを確認してください。また、本機の他にモニターなどを接続する場合は、車両側電源のヒューズ容量は、それらの総ヒューズ容量以上必要です。

車両側電源のヒューズ容量が不足する場合は、バッテリーから直接電源を取ってください。

車両側のヒューズ容量を超える電源を接続すると、リード線の容量オーバーにより、火災などの事故の原因となります。



本製品の配線は必ず、取扱説明書に記載してある通りに行ってください。配線を間違えますと、火災、その他の事故の原因となります。



コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対にお止めください。リード線の電流容量をオーバーし、火災・感電の原因となります。



車両の板金部の近くを通るコードには、保護用テープを巻いてください。コードが切れると、ショート事故により、火災となるおそれがあります。



アースコードを、ステアリング部やブレーキライン系統などの重要保安部品のボルトやナットに取り付けしないでください。事故などの原因となります。



車両電源配線用コード以外で延長しないでください。コードの被覆が破れやすく、ショート・発熱事故による火災が起こるおそれがあります。また、電流容量オーバーにより、火災が起こるおそれがあります。



本製品を前方の視界を妨げる場所や、運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けしないでください。交通事故や怪我の原因となります。



⚠ 警告



注意

カーペットを切ったり車体に穴を開けて取り付ける際は、パイプ類・タンク・電気配線などの位置を確認のうえ、これらと干渉したり接触したりすることがないようにしてください。火災の原因になります。



実施

本製品の取り付け終了後に、車のブレーキランプ・ヘッドランプ・ウィンカー・ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。正常に動作しない場合は、正常に動作するように取り付けをやり直してください。



実施

事故防止のため、電池やネジなどの小物は幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。



実施

本製品または車両のヒューズが切れたときは、コードがショートしていないことを確認後、必ずヒューズに表示されている容量(アンペア数)の新しいヒューズと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用しますと、火災の原因になります。



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。そのまま使用すると、事故・火災・感電の原因となります。



実施

万一(異物が入った・水がかかった・煙りが出る・変な匂いがするなど)異常が起きましたら、直ちに使用を中止し、必ず(ご購入上の販売店)にご相談ください。そのまま使用すると、事故・火災・感電の原因となります。



禁止

本製品を分解したり、改造しないでください。事故・火災・感電の原因となります。



実施

修理は必ず(ご購入上の販売店)にご依頼ください。

⚠ 注意



実施

本製品の取り付け・配線は専門技術と経験が必要です。安全のため(ご購入上の販売店)にご依頼ください。



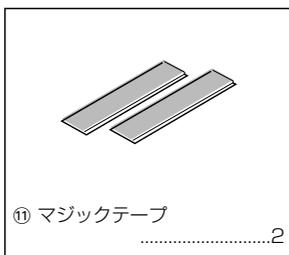
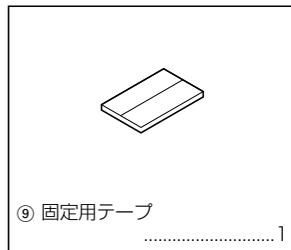
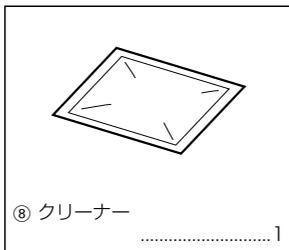
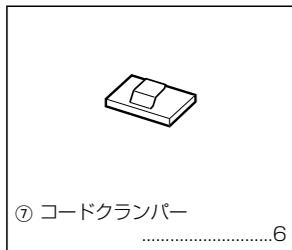
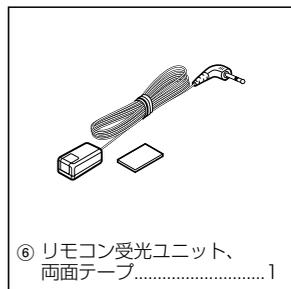
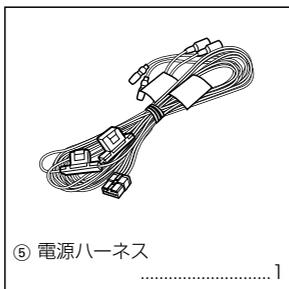
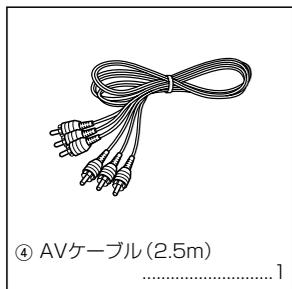
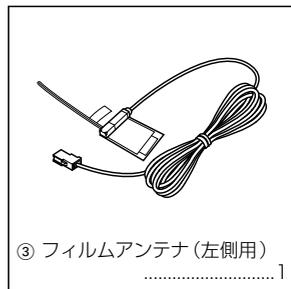
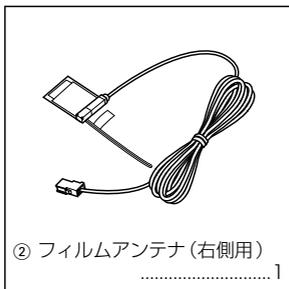
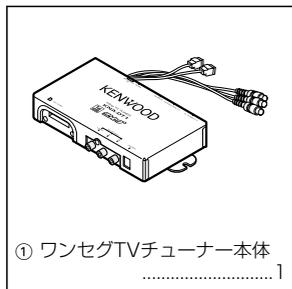
禁止

本製品を車載用として以外の用途では使用しないでください。

取付部品一覧

402

取付作業を始める前に、以下の部品が揃っていることを確認してください。



取付作業の留意点

- 次のような場所には取り付けないでください。
 - ✓ 直射日光やエアコンの送風が当たる場所、水のかかる場所、高温になる場所
 - ✓ しっかりと固定できない場所
 - ✓ グローブボックスの開閉の妨げとなる場所
- 本体は所定の場所に取り付けてください。
通気性の悪い場所やカーペットなどの下などに取り付けると、内部の湿度が高くなり故障や誤動作の原因となります。
- 取り付け作業が終了するまで本体の電源を入れないでください。
- 本体はしっかりと取り付けてください。

取付手順の流れ

1. 本機を安全に取り付けるために、「**401** 安全上のご注意」をお読みください。
2. ショート事故防止のため、エンジンキーを抜いた後、バッテリーの⊖端子を外します。
3. フィルムアンテナを取り付けます。
4. リモコン受光部を取り付けます。
5. 電源ハーネスのアースコード(黒)、バッテリー電源コード(黄)、アクセサリ電源コード(赤)の順に接続します。
6. 電源ハーネスのコネクターとリモコン受光部のケーブルを本体に接続します。
7. 本体を車両に取り付けます。
8. バッテリーの⊖端子を接続します。



注意

付属品以外のアンテナは使用しないでください。機器の故障の原因になる場合があります。

ワンセグTVチューナー本体の取り付け

404

ワンセグTVチューナー（以下「本体」）の取り付け方法には、マジックテープでパイルカーペットに固定する簡易的な方法とオーディオボード（市販品）などにネジ止めする方法があります。

本体の取り付け位置について

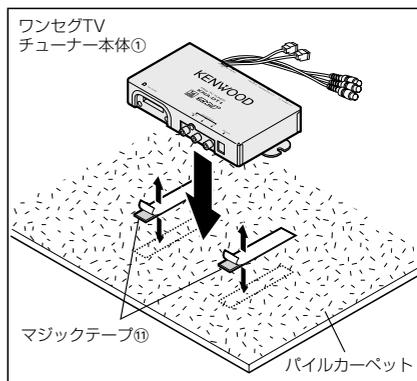
- 本体には各種接続端子があります。本体の接続端子側には、ケーブルを接続するためのスペースを確保しておいてください。
- 本体の上に物を置かないようにしてください。本機の故障の原因となります。
- 本体は、他のユニット類と重ねて設置しないでください。
- 本体は、無線機のアンテナから1.5m以上離れた位置に取り付けてください。

マジックテープを使う場合

1. マジックテープ⑩のはくり紙をはがし、本体の底面に貼ります。
2. マジックテープ面を下にして本体をパイルカーペット等に押し付け、固定します。

≡ note ≡

- この取り付け方は簡易的な方法です。振動の影響で動作に問題が生じる場合はタッピングネジを使って取り付けてください。

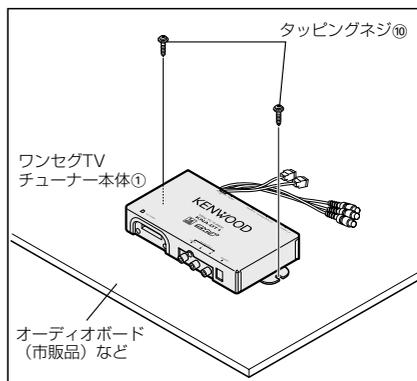


ネジ止めをする場合



車体に穴をあける場合は、裏側に何も無いことを確認してください。
ケーブルやパイプを傷つけると事故や故障の原因になります。

1. タッピングネジ⑩を用い、ブラケットを車両のオーディオボード（市販品）などに固定してください。



取り付け上のご注意

- このフィルムアンテナは車室内専用です。
- 下記の位置には取り付けないでください。
 - ✓ 車検標章などと重なる位置
 - ✓ 運転者の視界を妨げる位置
 - ✓ エアバックや保安部品の動作の妨げとなる位置
 - ✓ リアハッチなど可動するガラス面
- 下記の場合は受信感度が低下します。
 - ✓ 熱線反射ガラスやミラー調ガラスフィルムの貼ってある場所
 - ✓ 純正ラジオなどのアンテナ(パターン)に重なる場所
 - ✓ ウィンドウの熱線と重なる場所
 - ✓ 車体の側面(ドアやフロントクォーターウィンドウなど)
 - ✓ リアウィンドウなど
 - ✓ 電波を通さないガラス(熱線反射ガラスや断熱ガラスなど)を使用している場合
- フィルムアンテナとアンテナケーブル②③の取り付け位置を十分に確認してから作業を行ってください。フィルムアンテナと両面テープは貼りなおすことができません。
- 貼り付け面の油分や汚れを付属のクリーナー⑧できれいに拭き取ってください。
- フィルムアンテナを折り曲げたり、傷を付けないでください。
- 貼り付け面の温度を、暖房をかけるなどして高くしてから作業を行ってください。
- 車種により取り付けられない場合があります。
- フロントピラーにフロントエアバックを搭載している車には取り付けられません。
- フィルムアンテナおよびアンブ部は、ケーブルの引き回しなどを確認してから貼り付けてください。

≡ note

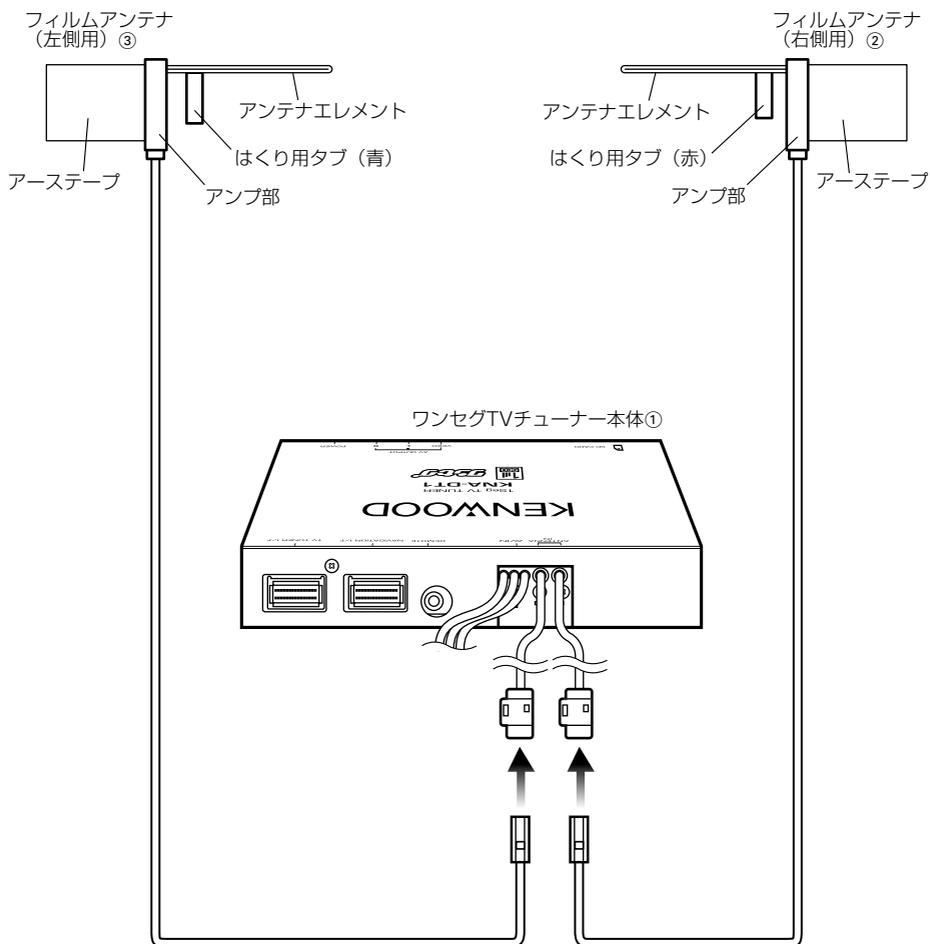
- ワイパーを動かした際やエアコン、モニターなどから出るノイズにより、受信感度が低くなる場合があります。
- 車両(アンテナ)の方向と放送局の位置関係により受信状態が悪くなる場合があります。
- フィルムアンテナとアンテナケーブルには、左側用と右側用があります。左側用と右側用を間違えないように正しく取り付けてください。

接続のしかた

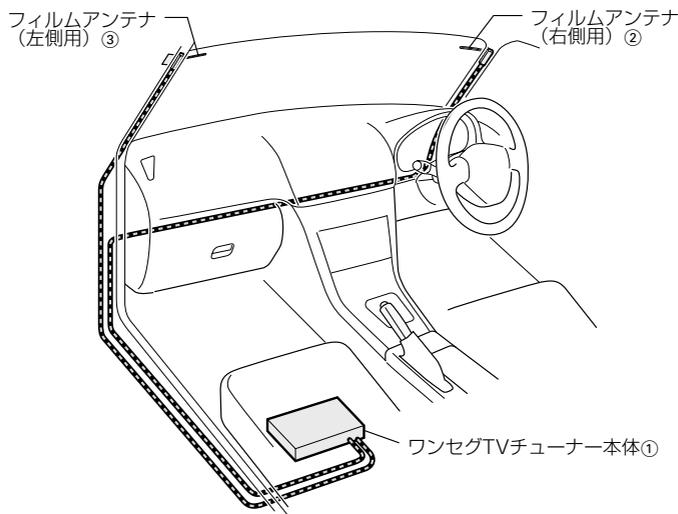


実施

ショート事故防止のため、エンジンキーを抜いた後、バッテリーの⊖端子を外してください。



取り付け例



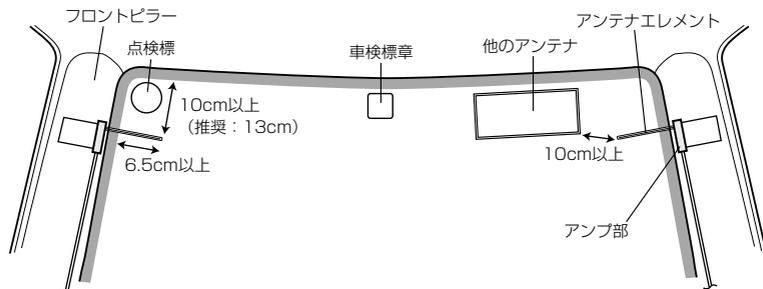
コードクランパー⑦を使用して、アンテナケーブルをピラー部分で数か所固定します。

≡ note

- アンテナケーブルは、安全のため、助手席側に配線することをお薦めします。

取り付け時の注意

- フィルムアンテナとアンテナケーブルには右側用と左側用があります。右側用/左側用を間違えないように正しく取り付けてください。
- アンテナエレメントは、フロントガラス上端のセラミック部分（黒い部分）や他のアンテナから10cm以上（推奨：13cm）離してください。また、フロントガラス側端のセラミック部分よりも内側に6.5cm以上確保できるように貼り付けてください。



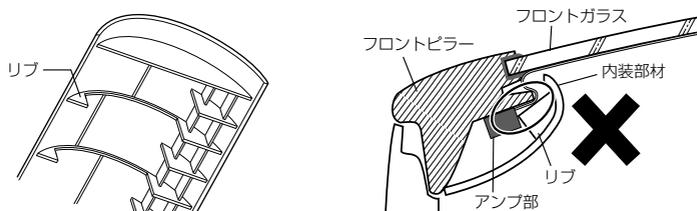
- アンプ部は、フロントピラーの金属部でフロントガラスに最も近い場所に貼り付けてください。この際、広くて平らな場所にアンプ部全面が金属部分に接触するように貼り付けてください。

フィルムアンテナの取り付け

- アンテナのアンブ部をフロントピラーに貼り付けるとき、次の場所は避けてください。
 - ー 穴や角があって、アンブ部の接着面全体で接着できない場所



- ー 内装部材（フロントピラーカバー）の内側にあるリップなどがアンブ部やアンテナエレメントと干渉する場所



- アンブ部をピラー内に貼り付けることができない場合は、フロントガラスに貼り付けることができます。この場合は、ガラス周縁のセラミック部分（黒い部分）には貼り付けしないでください。十分な接着力が得られません。

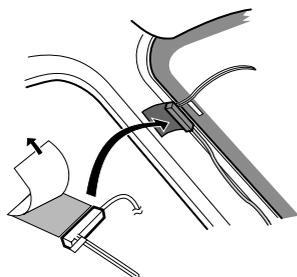


アンブ部をガラス面に貼り付ける場合は、セラミック部分の線から2.5cm以内に貼り付けてください。この範囲をはみ出して貼り付けた場合、保安基準に適合しなくなります。

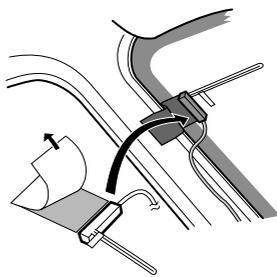
取り付け方法

1. 取り付け位置を確認します。
「取り付け時の注意」（37～38ページ）に記載されているような場所を避けて取り付け位置を決めます。実際にアンテナを当てて確認してください。
2. アーステープをフロントピラーまたはフロントガラスに貼れる長さに切ります。
アンブ部より最低2.5cmは残してください。
3. アンブ部とアーステープを貼り付ける部分の汚れを、付属のクリーナー⑥できれいに拭き取ります。
金属面の塗装は、はがす必要はありません。
4. アンブ部とアーステープのはくり紙をはがし、フロントピラーまたはフロントガラスに貼り付けます。

〈アンブ部をピラー内に貼る場合〉

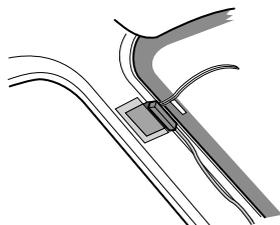


〈アンブ部をフロントガラスに貼る場合〉



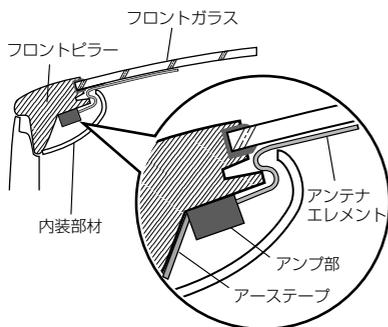
5. アーステープの上から固定用テープ⑨を貼ります。

〈アンブ部をピラー内に貼る場合の例〉

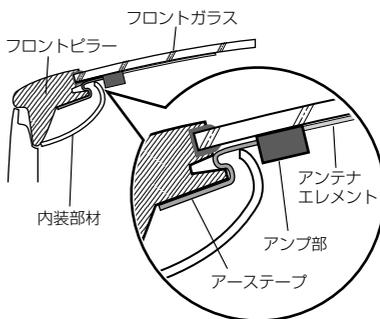


6. アンテナエレメントを貼り付ける部分の汚れを、付属のクリーナー⑩できれいに拭き取ります。
 7. アンテナエレメントを貼り付ける部分に、中性洗剤をうすめた水を十分に塗ります。
 8. はくり用タブをつまんではくり紙をはがし、アンテナエレメントをフロントガラスに貼り付けます。
 この際、内装部材（フロントピラーカバー）がエレメントに干渉しないように、エレメントに十分に余裕をもたせてください。

〈アンブ部をピラー内に貼る場合〉

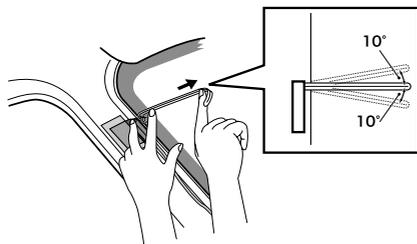


〈アンブ部をフロントガラスに貼る場合〉



9. アンブ側のフィルムアンテナの端を片手で押さえながら、アンテナエレメントを水平に貼ります。アンテナエレメントの角度は、上下10度まで調整できます。アンテナエレメントをフロントガラスの中央部に向かって軽くしごいて、気泡や余分な水を取り除きます。

〈アンブ部をピラー内に貼る場合の例〉



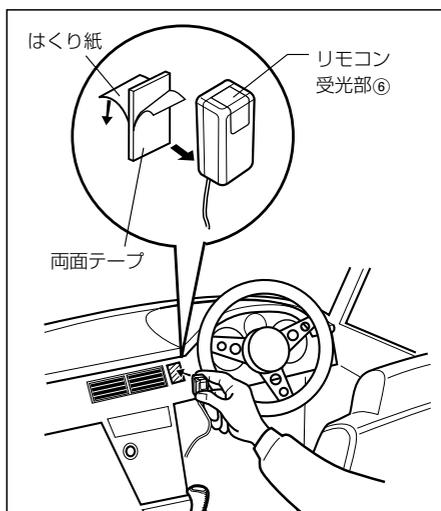
水が乾くまでは、アンテナエレメントを指で軽く押して位置を調整できます。
 乾いた後は、動かすことや貼りなおすことはできません。

リモコン受光部の取り付け

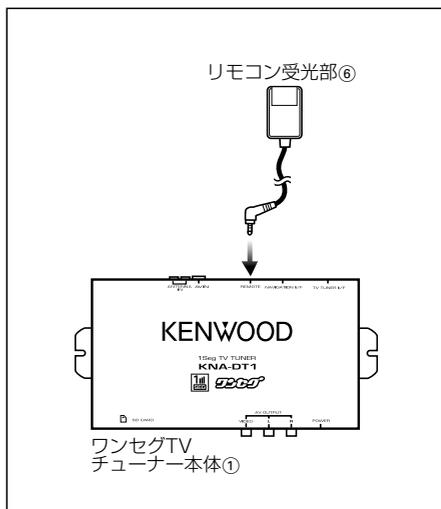
406

リモコン受光部をダッシュボードなどに貼り付けます。

1. 両面テープのはくり紙をはがし、リモコン受光部⑥の背面に貼ります。
2. 取り付ける場所の油汚れなどをきれいに拭き取り、リモコン受光部⑥をダッシュボードなどに貼り付けます。



3. リモコン受光部のジャックを本機に接続します。



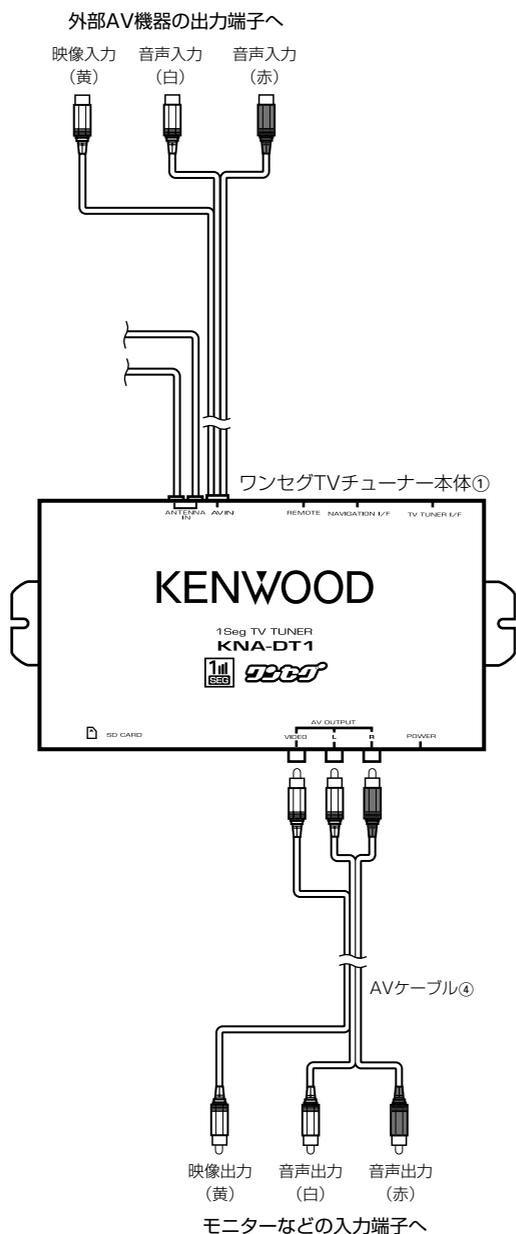
≡ note

- 取り付ける面の油汚れなどをきれいに拭き取ってください。
- 直射日光の当たる場所やTVモニターの近くは、リモコンの信号が受信されにくいので、避けてください。

周辺機器の接続

407

モニターや外部AV機器と本機の接続は下図のとおりです。



1. 電源ハーネス⑤をアースコード(黒)、バッテリー電源コード(黄)、アクセサリ電源コード(赤)の順に接続します。
2. 電源ハーネス⑤のプラグを本体①に接続します。
3. 取り付け終了後に、バッテリーの⊖端子を接続します。



実施

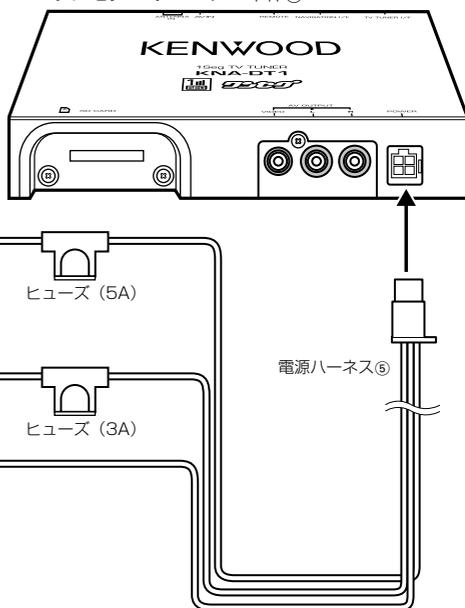
作業前にエンジンキーが抜かれていることを確認し、ショート事故防止のため必ずバッテリーの⊖端子を外してください。



注意

- 各端子の接続は完全にロックするまで差し込んでください。
- 使用しない電源ハーネスのプラグ、拡張端子のキャップは取り外さないでください。

ワンセグTVチューナー本体①



バッテリー電源コード(黄)
エンジンキーのオン/オフに関係なく常に通電している電源へ接続します。
⇒ 図Aの2

アクセサリ電源コード(赤)
エンジンキーをオンにしたときに通電する電源へ接続します。⇒ 図Aの1

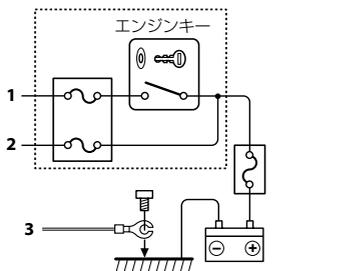
アースコード(黒)
車の金属部分(電源のマイナス側と導通しているシャーシなどの一部)へ接続します。⇒ 図Aの3

図A



注意

輸入車など、車両のエンジンキーにACCポジションがない場合、エンジンキーがオンのときに通電する配線から分岐させてアクセサリ電源コードに接続してください。



注意

ヒューズが切れたときは、コードがショートしていないことを確認後、ヒューズに表示されている容量(アンペア数)の新しいヒューズと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用すると、火災の原因になります。

KENWOODワンセグTVチューナーのソフトウェアライセンスについて

KENWOODワンセグTVチューナーに組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアコンポーネントで構成され、個々のソフトウェアコンポーネントは、それぞれにKENWOODまたは第三者の著作権が存在します。

KENWOODワンセグTVチューナーは、KENWOOD及び第三者が規定したエンドユーザーライセンスアグリーメント（以下、「EULA」といいます）に基づくソフトウェアコンポーネントを使用しております。

「EULA」の中には、フリーソフトウェアに該当するものがあり、GNU General Public LicenseまたはLesser General Public License（以下、「GPL/LGPL」といいます）のライセンスに基づき実行形式のソフトウェアコンポーネントを配布する条件として、当該コンポーネントのソースコードの入手を可能にするように求めています。当該「GPL/LGPL」の対象となるソフトウェアコンポーネントに関しては、以下のホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.kenwood.co.jp/gpl>

なお、ソースコードの内容等についてのご質問はお答えしかねますので、予め御了承ください。

また、KENWOODワンセグTVチューナーのソフトウェアコンポーネントには、KENWOOD自身が開発もしくは作成したソフトウェアも含まれており、これらソフトウェア及びそれに付帯したドキュメント類には、KENWOODの所有権が存在し、著作権法、国際条約及び他の準拠法によって保護されています。

KENWOOD自身のソフトウェアコンポーネントの取扱いについては、添付の「ソフトウェア使用許諾契約書」を参照ください。なお、「GPL/LGPL」の適用を受けない「EULA」に基づくソフトウェアコンポーネント及びKENWOOD自身が開発もしくは作成したソフトウェアコンポーネントは、ソースコード提供の対象とはなりませんのでご了承ください。

「GPL/LGPL」に基づいて配布されるソフトウェアコンポーネントは無償でお客様に使用許諾されますので、適用法令の範囲内で、当該ソフトウェアコンポーネントの保証は、明示かつ黙示であるかを問わず一切ありません。適用法令の定め、又は書面による合意がある場合を除き、著作権者や上記許諾を受けて当該ソフトウェアコンポーネントの変更・再配布を為し得る者は、当該ソフトウェアコンポーネントを使用したこと、又は使用できないことに起因する一切の損害についてなんらの責任も負いません。当該ソフトウェアコンポーネントの使用条件や遵守いただくかなければならない事項等の詳細は、各「GPL/LGPL」をお読みください。

KENWOODワンセグTVチューナーに組み込まれた「GPL/LGPL」の対象となるソフトウェアコンポーネントをお客様自身でご利用頂く場合は、対応するライセンスをよく読んでから、ご利用くださるようお願い致します。なお各ライセンスはKENWOOD以外の第三者による規定のため、原文（英文）を記載します。

ソフトウェアに関する重要なお知らせ

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE**Version 2, June 1991**

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.
59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software—to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or

any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
- c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way,

to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or

contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

- a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sub license, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sub license or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any

work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of

ソフトウェアに関する重要なお知らせ

any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

```
<one line to give the program's name and a brief idea of
what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>
```

```
This program is free software; you can redistribute it and/or
modify it under the terms of the GNU General Public
License as published by the Free Software Foundation;
either version 2 of the License, or (at your option) any later
version.
```

```
This program is distributed in the hope that it will be
```

```
useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the
implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A
PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License
for more details.
```

```
You should have received a copy of the GNU General
Public License along with this program; if not, write to the
Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330,
Boston, MA 02111-1307 USA
```

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

```
Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY;
for details type `show w'. This is free software, and you are
welcome to redistribute it under certain conditions; type
`show c' for details.
```

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items-- whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

```
Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the
program "Gnomovision" (which makes passes at compilers)
written by James Hacker.
```

```
<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice
```

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.
59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide

to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free

programs.

These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The

ソフトウェアに関する重要なお知らせ

act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it).

Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) The modified work must itself be a software library.
- b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or

contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work.

(Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library.

(It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a

special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the

executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

ソフトウェアに関する重要なお知らせ

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY

SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change.

You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library 'Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

本体

受信チャンネル	UHF13~62チャンネル
受信方式	地上デジタル放送の1セグ受信
アンテナ入力	ダイバシティ受信対応
使用電源	DC14.4V (11V~16V)
定格電流/消費電力	0.5A/7.2W
使用温度範囲	-10℃~+60℃
保存温度範囲	-30℃~+85℃
外形寸法 (W×H×D)	171.4×29.9×95.3mm (突起物除く)
質量	450g

フィルムアンテナ

受信チャンネル	UHF13~62チャンネル
周波数範囲	470.0 ~ 770.0MHz
アンプ利得	9~12.5dB
出カインピーダンス	50Ω
ケーブル長	右: 5.5m、左: 4.0m
電源電圧	DC8V
消費電流	40mA以下
エレメント寸法	100mm
重量	右: 80g、左: 60g (付属品含む)

本製品は、Ingenient Technologies社の組み込みマルチメディアテクノロジーを使用しています。

保証について

- 保証書 この製品には、保証書を別途添付しております。
保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店」等の記入をお確かめの上販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
- 保証期間 お買上げの日より**1年**です。

修理を依頼されるときは

■ 504 故障かなと思ったら」を参照してお調べいただき、それでも異常があるときは、製品の電源をオフにして、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、ケンウッドサービスステーション、営業所にお問い合わせください。

修理に出された場合は、お客様が登録、設定したメモリー内容が全て消去されることがあります。
あらかじめご了承ください。

● 保証期間中は…

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、ケンウッドサービスステーション、営業所が修理させていただきます。ご依頼の際は保証書をご提示ください。

本機以外の原因（衝撃や水分、異物の混入など）による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後は…

お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、ケンウッドサービスステーション、営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後**6年**です。

（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

● 持込修理 この製品は持込修理とさせていただきます。

製品を修理のために、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、ケンウッドサービスステーション、営業所にお持ちになるときは、輸送中に傷が付くのを防ぐため、包装してください（本機と一緒に持ち込まれるユニット内のディスクなどのメディアはあらかじめ取り出してください。）。

● 修理料金のしくみ（有料修理の場合は、つぎの料金が必要になります。）

技術料： 故障した製品を正常な状態に修復するための料金です。

技術者の人件費、技術教育費、測定器等設備費、一般管理費等が含まれます。

部品代： 修理に使用した部品代です。

その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。

なお、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、ケンウッドサービスステーション、営業所にご遠慮なくお問い合わせください。

故障かなと思ったら

504

次の一覧から該当する症状を見つけて対処してください。
解決方法が見つからない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

症状	考えられる原因	対処方法
電源を入れてもすぐに映像が出ない。	電源を入れてから、ソフトウェアが起動して映像を表示するまでに、時間がかかります。	—
映像や音声がでない(または、ときどき出なくなる)。 映像が静止する(または、ときどき静止する)。	車の場所や方向、周辺環境(建物、車、人など)により受信状態が変化します。 モニターに出力しているソースがワンセグになっていない。	— モニターに出力するソースをワンセグにしてください。P.301
地上デジタル放送が受信できない。	車の場所が、地上デジタルテレビ放送の放送エリアではない。 地上デジタルテレビ放送は、現在のアナログテレビ放送との混信を避けるために受信エリアが限られています。順次拡大される予定です。また、受信障害がある環境では、放送エリア内でも受信できない場合があります。	—
	付属のアンテナを使用していない。	付属のアンテナを正しく接続してください。P.405
	使用しているチャンネルリストが車の場所のエリアの放送チャンネルと合っていない。	再度、チャンネルをスキャンしてください。P.202
特定のチャンネルが受信できなくなった。	放送周波数が変更になった可能性があります。	再度、チャンネルをスキャンしてください。P.202
音声切り替えモードどおりの音声が出力されない。	音声切り替えの設定を行っても、放送されている番組にその音声サービスが行われていない場合があります。	—
字幕が出ない。	字幕切り替えの設定を行っても、放送されている番組にその字幕サービスが行われていない場合があります。	—
横長映像や縦長映像になる。	映像出力設定が接続しているモニターにあっていない。	メニューの「映像出力設定」で画面モードを選択しなおしてください。P.302

エラーメッセージ

メッセージ	考えられる原因	対策
現在使用中のチャンネルリストは登録されていません。 現在のチャンネルリストを破棄してチャンネルリストを切り替えますか？	保存されていないチャンネルリストがワークメモリにあるときに、チャンネルメモリを呼び出した。	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークメモリのチャンネルリストを破棄して指定したチャンネルメモリのチャンネルリストを呼び出す場合は[はい]を選択します。 ● ワークメモリのチャンネルリストを破棄しない場合は、[いいえ]を選択してから、ワークメモリのチャンネルリストをチャンネルメモリに保存してください。
プリセットチャンネルが存在しません。 スキャンを実行して下さい。	現在使用しているチャンネルリストに受信可能な放送局が一つも登録されていない状態で、プリセット選局した。	<ul style="list-style-type: none"> ● チャンネルスキャンを実行してください。 ● シークモードをオートモードに切り替えて選局してください。
受信可能なチャンネルがありません。	オートモードで全チャンネルをシークしたが、受信可能なチャンネルがなかった。	受信状態が良い場所へ移動してください。
番組表データを受信できません。	ワンセグを受信できない状態で番組表を表示しようとした。	番組表は、受信可能なチャンネルに切り替えてから表示してください。
受信できません。	受信レベルが低下した。	受信状態が良い場所へ移動してください。
アンテナに不良が発生しました。 ワンセグ放送は視聴できません。 サービスへお問い合わせください。	アンテナに不具合が発生した。	お買い上げの販売店やケンウッドサービスセンター等へご連絡ください。
休止中	ワンセグが放送休止中です。	放送されているチャンネルに切り替えてください。
このチャンネルはありません。	選局したチャンネルでワンセグが放送されていない。	放送されているチャンネルに切り替えてください。
初期化に失敗しました。	システム初期化に失敗した。	もう一度、操作しなおしてください。 何度も表示されるようであれば、お買い上げの販売店やケンウッドサービスセンター等へご連絡ください。

数字

3桁チャンネル番号 212

あ行

オートモード 208
 オート選局 208
 音声切替キー 101、210

か行

画面モード 302
 ノーマルモード 302
 ワイドモード 302
 決定キー 101

さ行

シークモード 101、207、208、212
 字幕切替キー 101、211
 受信情報を表示する 212
 初期化 305
 操作音 303

た行

ダイレクト選局 209
 地上デジタルテレビ放送 005
 チャンネルキー 101
 チャンネルスキャン 201、202
 スキャンキー 101
 チャンネルメモリ 201、203
 チャンネルリスト 201
 チャンネルリストから選局する 206
 チャンネルリストを作成する 202
 チャンネルリストを表示する 205
 チャンネルリストを保存する 203
 チャンネルリストを呼び出す 204
 チャンネルリストの順に選局する 207
 メモリ登録キー 101
 メモリ呼出キー 101

チャンネルリスト選局 206
 電源オン / オフ 103
 電池交換 102

は行

バージョン 304
 番組表
 番組表キー 101
 番組表を表示する 213
 ビープ音 303
 表示切替キー 101
 フィルムアンテナの取り付け 405
 付属品 402
 プリセット選局 207
 プリセット番号 209、212
 プリセットモード 207

ま行

メニューキー 101
 戻るキー 101

ら行

リストキー 101
 リモコン
 リモコン (各部の名称とはたらき) 101
 リモコンでダイレクトに選局する 209

わ行

ワンセグ 005
 ワンセグ情報 304

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒192-8525 東京都八王子市石川町 2967-3

- 商品に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。

ナビダイヤル 0570-010-114 (一般電話・公衆電話からは、どこからでも市内通話料金でお問い合わせが可能です)

携帯電話、PHS、IP電話からは 045-933-5133

FAX 045-933-5553

住所 〒226-8525 神奈川県横浜市緑区白山1-16-2

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00

土曜 9:30～12:00、13:00～17:30

(日曜、祝日および当社休日は休ませていただきます)

- 修理などアフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、別紙「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービスステーション、サービスセンター、各営業所にご相談ください。